



南平小だより 6月号

ホームページ <https://www.hmo-fky.ed.jp/e-minamidaira/> 校長 千葉 智弘
〒191-0041 日野市南平4-18-1, Tel(042)592-2021 Fax(042)592-2022

副校長 長塚 淳

4月に新年度が始まり、早2か月が過ぎました。新しい学年、新しい教室、新しい友達、新しい先生…新たなスタートを切ることで、清新な気持ちでこの2か月を過ごした子供達もたくさんいることと思います。1学期の始業式では、校長先生から「実現したい目標をしっかりと立てること」について、お話がありました。保護者の皆様の中にも、新年度に目標を立てた方がいらっしゃると思います。

あれから時間が経ち、学校生活も軌道に乗ってきたところですが、立てた目標の進み具合は、いかがでしょうか。目標を立てること自体は、誰にでもできることなのかもしれません。しかし、決めた目標を達成することや守り続けることは、思いの他大変なことだと思います。それは子供だけではなく、大人でも同じだと思います。

目標について子供達に指導するとき、最も避けたいのは、「達成できないからもうやめた」と思わせてしまうことです。なぜならば、「どうせできない」という失敗体験を植え付けてしまうおそれがあるからです。このことから、「達成できる目標を立てる」ことが大切だということが分かります。

それならば、すでに達成できることが分かっていることを目標とすればよい、ということになります。しかし、日常生活の中に「できないこと」や「続けるべきこと」があるから目標となるのであり、平易にできることを目標とすることに意味を見いだすことはできません。ましてや子供達の意欲や意識が高まることはさほど期待できません。このことから、「平易な目標は立てない」ことも大切だということが分かります。

以上のことから、目標を立てるときには「がんばれば手が届く目標であること」が大切になります。つまり、「最後までがんばらせることができる」ことが重要なのだと言えるでしょう。

われわれ教員が子供達に学ばせたいことは、正に「がんばること」なのです。将来「なりたい自分」になるためには、まず「なりたい自分」像があることが必要です。そして「なりたい自分」に変身することを押し進める強い意欲やエネルギーも必要です。前者が「目標」であり、後者が「がんばること」なのです。人生経験の少ない子供達が、どのくらいがんばれば物事を達成できるかという見通しをもつことは非常に難しく、ゴールの見えないマラソンのようなところがあるでしょう。大人が適切に支援し、自分の力で成し遂げた達成感を味わわせることで、頑張ることの価値や意味を実感することができます。「やればできる」経験を蓄積することで、なりたい自分に向かって努力ができ、自信をもつことができ、それこそが、自己実現を叶える唯一の方法なのです。

「がんばること」を持続させるには「なりたい自分(目標)」を強く意識付けすることも同じように重要です。そのためには必要感があることが有効です。目標を達成できなければ困る状況であれば、人は必死で努力すると思います。「失敗は成功のもと」と言われる所以は、そこにあるのかもしれませんが。